



新年あけましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、新しい年を迎えられたことでしょう。

今年もみんなで一緒に子育てしながら“親”を楽しみましょうね。

今年度の広場は、残すところあと1か月。子育てのこのひと時を共に過ごし、一緒に笑い、一緒に悩み、一緒に大きくなりましょう。今年もよろしくお祈りします。

みんなにご馳走してくれたMちゃん

大きなケーキを完成させたMちゃん(3歳1か月)。そのケーキを切り分け、お皿に載せると、初めての友達にも渡しに行きました。奥に写っているYくん(3歳)もいただいたケーキをモグモグ食べています。Tちゃん(2歳3か月)も突然のプレゼントに驚きながらも両手で受け取っています。隣でお母さんが言葉を添えてお礼を伝えていました。



広場では、自然に子ども同士のやりとりが生まれます。ほほえましいやりとりに、周りの大人たちは微笑み合ったり、欲しいものが重なってモジモジしているときは、気持ちに共感しながら寄り添ってあげたり、子どもが感じていることや考えていることを尊重してくれている大人の皆さんの姿に、私はいつも教わります。我が子との心の距離をいつもより少し離して、自分以外の人と我が子がやりとりしている様子を見てみると、一人の人間として心を揺らしながら考えている我が子が愛おしくなりますね。

「見守る」とは、手も口も出さずにいること。しかし、目と心はしっかりと子どもから話さず、「ここは大人の出番!」というときに、大人の価値観をしっかりと出してかかわってあげること。「お母さんも、そう思うよ」「よく言えたね。かっこよかったよ」「そうされたら、悲しいな」その言葉を聞いて、子どもは考えます。そして、自分はどうか生きるか、どちらに価値を置いた選択をするのか、人としての価値観を作っていくのですね。

水鉢の水に氷が張った! 急いでメダカの引越しだ!

「先生~大変~氷張っている! メダカ生きてるかな~?」

庭プロジェクトメンバーの学生が、大声で教えに来てくれました。メダカのお世話をしてくれている学生たちは、すっかり母心になり、氷の張った冷たい水に素手を入れて氷を取り除き(「これ(氷)、子どもたちにも触れて欲しいですよ」と、意識は保育者、よい気付き!), その氷はひとまず隣の花壇に立てかけておき、急いでメダカたちの生存確認をしました。



「いた! 動かないよ」「じっとしているね」



「まずは、汲み置きしていた水の方が水温が高いから、そのバケツにメダカを移そう」ということになり、砂場の道具でメダカをすくい、バケツに移し、そのバケツを暖房の入った室内に移動させました。（急にVIP対応になりました）しかし、6匹中、5匹しか見つかりません。何度も水の中をのぞきこみ、冷たい中水草を揺らしたりして、ようやく数時間後残りの1匹も救出されました。

さて、これからどうしようか・・・冬の間、メダカたちをどうするのか、庭プロジェクトメンバーは相談しました。その結果、水槽に移して保育室内に置き、子どもたちにも観察してもらったり、餌をあげる体験をしてもらったり、もっとメダカに親しんでもらおうということになりました。（ここには、寒い外に置いておけない母心も含まれています）



水槽も買ったし、砂も買ったし、水草も選んだし、準備万端です！

広場の子どもたちと一緒に、メダカちゃんたちをバケツから水槽に移しました。日頃の砂遊びで慣れているので、おたまで上手にすくってくれたEちゃん（1歳11か月）Hくん（2歳9か月）、水槽で泳ぎ出したメダカたちを目で追って、しばらく見ていました。



ということで、冬の間は光の当たる窓際に置かれている水槽。ここに置かれたことで、子どもたちも興味関心をもってくれることになりました。

メダカたち・・・年末年始は、学生のMさんの自宅にお泊りさせていただいています。Mさん、ありがとう！

信号を描きました よく知っているね～



「先生、信号描いて！」とTくん（4歳）のお誘いを受けました。「いいよ！」「でも、信号ってどういうのだったかな・・・？」黒い線で信号の輪郭だけ描いて、「こういう形だったかな～？」と、困った顔をして相談しました。Tくんは、「そうそう、そういうの」「そしてね・・・」と言って色を描き加え、ここがピコピコ・・・ってなると赤になって・・・と、説明してくれながら歩行者用信号も描いてくれました。生活の中で、大人の話をよく聞き、よく見て、しっかり考え、表現する力もついています。

二人で砂遊び

風の強い冬のある日。今日は庭遊びだけの広場の日。保育者2人で「こんな寒い日の外遊びは、誰も来ないかもね」と話していたら、Hくん(2歳9か月)続いてEちゃん(1歳11か月)Nちゃん(8か月)兄妹が、遊びに来てくれました。勿論、Nちゃんは温かいママの抱っこのままですので、EちゃんとHくん2人とじっくり砂遊びをすることにしました。



大きなスコップで大きな穴を掘ると、男の子2人もダイナミックに遊び始めました。Eちゃんは、穴にすっぽり入ってニコニコです。

掘り出した砂をダンプカーに乗せて板の上を走らせると、2台も3台も連ねて走らせるようになりました。

「どこまで運ぶのですか〜？」



2人がイメージを共有できるように、時々言葉を添えながら、一緒にその世界を楽しむことができました。言葉での会話は無いけれど、しっかり通じ合って一緒に遊んだ楽しい時間でした。

大きい子の遊びの姿が、小さい子の刺激になって・・・



Yくん(3歳)Kちゃん(3歳9か月)Tくん(4歳)・・・大きい子どもたちのお買い物ごっこが始まりました。欲しいものをバッグに入れて、自分でレジのところに行って「ピッ」とします。いつもおうちの方と買い物に行ったときに見たこと、聞いたことを再現して遊んでいるのでしょう。お金を支払うより先におつりを受け取ったりしています。大人も一緒にそのイメージの世界に参加して働きかけることで、次第にその意味や役割分担なども理解して、ごっこ遊びも深まっていくことでしょう。

この様子を真剣に見ているYちゃん(1歳3か月)、同じテーブルで過ごしているDくん(1歳3か月)、ケーキをご馳走になっているRくん(1歳2か月)、大きい子どもたちが遊んでいる姿から、たくさんの刺激をいただいていますね。



来年の米味噌を仕込みました

親と子の広場の保育室には、フリードリンクとして「手作り味噌」が置いてあります。さっとお湯で溶いて、味噌スープの出来上がり！ 親も子どもも学生も、ここでほっこり寛ぎます。

12月に入り、親と子の広場の味噌も残りわずかとなってきました。そこで、「来年の味噌を仕込みますよ」と声を掛け、みんなで力を合わせて米味噌作りをしました。



毎年、福島県国見町の大豆を使わせていただいています。安心安全な地元の食材を使用します。大豆を柔らかく茹で、鍋のふたをとると、大豆のいい香り！ 香りと一緒に味見もします。

「お豆の味、おいしい！」

すり鉢とすりこ木を使ってすり潰す体験も楽しかったね。

手仕事しながら、おしゃべりも弾みます！



続いて、米麴を手でほぐし、塩と混ぜます。子どもたちは、米麴のぼろぼろした感触や塩のさらさらした感触を手で味わいます。そして、大豆と合わせてよく混ぜます。押さえる人、混ぜる人、声を掛ける人、自然と協同作業が進みます。一人での味噌づくりは大変そうですが、みんなで集まっての味噌づくりは、何て楽しいのでしょうか！

子育ても一緒です。みんなで集まって多くの人の目と手と心で楽しく子どもを育みたいものですね。

(味噌を育む話に戻します)



大きなビニール袋にひとまとめにして、次は足で踏みます。足の裏で感触を味わいながら、良く混ぜます。今日は、五感と全身をフルに使っています。ヤギさんの力も借りたようですね。



そろそろ仕上げです。味噌団子を作って空気を抜きます。食物栄養専攻の栄養士さんから、そのコツや意味を聞きながら、みんなで最後の工程に取り掛かります。

両手でぎゅっと握ってしっかりまとめられています。大きな手で大きな団子、小さな手で小さな団子、愛情もたっぷり込められています。



手の感触・大豆の香り・人のおしゃべり・・・五感で味わいながら、とても幸せな空気に包まれました。





最後に3つの容器にギュッと詰めて、「おいしくなれ！」と思いを込めて、蓋をしました。
そして、絵本「まんまるダイズみそづくり」をみました。

おみそになるには ほんとしいじょう。
じっくり たっぷり ゆっくり ねかす。
しずかに すずしく あわてずに。
こうじが ちゃんと はたらいて
ゆっくり ゆっくり
おいしい おみそになっていく。

絵本「まんまるダイズみそづくり」(福音館書店)より

春になったら、みんなで作ったお味噌をいただきます
ましようね。

その頃は、新しいお友達も増えているかな
〇〇くんの家には赤ちゃんが生まれている頃
そして、短大にも新入生が入学してくる頃です。



いつもクッキングの指導をしてくれている食物栄養専攻助手の佐藤香菜子さん(栄養士)から、メッセージをいただきました。栄養士さんの知識や技術から、学ぶことはたくさんあります。香菜子さんに気軽に声を掛けてみてくださいね。



映画「いただきます」を見て以来、親と子のひろばでの味噌づくりに参加したいとずっと思っていたのですが、念願叶って参加することができました。

すり鉢で大豆をすり潰したり、ビニール袋に大豆を入れて足で踏んだり、丸くまとめて容器に入れたりと様々な工程も楽しく協力して作ることができました。みんなの愛情たっぷりの味噌が出来上がったら、どんな料理を作ろうかな！今からとっても楽しみです。

私も乗りたい！

人気のショベルカー。乗りたいタイミングが重なることがしばしば。だって、誰かが乗っていると、急に魅力的に見えて乗りたいくなるのですもの。当然です。今回は、Mちゃん（2歳10か月）とYちゃん（3歳3か月）が、「私が乗るの！」と、しっかり自己主張しています。素晴らしいですね。一人がちょっと降りた隙にもう一人が乗ってしまいお互いが「・・・」どちらも気持ちが良いものではありません。

するとMちゃんがおしりを目いっぱい前に移動して「ここに乘ったら？」と自分の後ろのスペースを空けました。Yちゃんはまだ浮かない表情でしたが、そこに乗ってみました。「わあ～、二人で乗れたね！」

「いい考え！」周りで見守っていた大人たちが、声をあげました。Mちゃんのお母さんとYちゃんのお母さんは、途中で口を出さずに、すぐ近くで温かな眼差しで見守ってくださっていた姿に、私は流石だなと思いました。子どもたちが自分たちで困って考えたり試したりしているとき、私たち大人は見守ります。しかし、自分ではどうしようもなくなっているように思えたときは、丁寧に手を貸してあげます。これが大人の役割ですね。



抱っこちゃんたちが、遊び始めました



これまで、お母さんに抱っこされてお姉ちゃんの遊びに付き合ってくれていた第2子たちが、続々広場デビューしてきました。「赤ちゃんだったのにね～」「もうハイハイするのね」大人たちが目を細めて、声を掛けてくれます。

さて、これからどんな探索活動(いたずら)を始められるのか、楽しみにしていますよ。



冬の庭・・・春を待って・・・



昨年できた庭も冬景色となりました。暑い夏には「日陰を作ってくれる木が欲しいね」と言い、秋にはどんぐりを植えました（何年後に木陰を作ってくれるのだろう・・・）。

夏に咲いた向日葵からは、種が採れました。庭が出来た初年度に咲いた向日葵が、次の年につながっていきます。



「築山に雪が積もったら、そり滑りもしたいね」そう話していたのに、今年の冬はまだ雪が積もった日がありません。これから冬本番でしょうか。冬には冬の遊びを楽しみましょうね。

そして、学生たちがあちらこちらに春咲きの球根を植えてくれていますよ。2年生は、それぞれ幼稚園や保育所、児童福祉施設等に就職して春を迎えます。その頃、この庭にも春の花が咲き、みんなの春を祝福してくれることでしょう。



日時：2020年

1/14(火)

10:40~11:00

場所：桜の聖母短期大学
図書館情報センター

プログラム

1. わらべうた「ととけっこう」
2. 大型絵本「かばくん」
3. わらべうた「いとまき」
4. 絵本「はなをくんくん」
5. わらべうた「ととけっこう」

1月には、お味噌を使ったクッキングも計画しています。お楽しみに！（日時は未定）

文責 奥田美由紀

今後の予定

- 1月 7日(火)
- 10日(金)
- 14日(火)
- 17日(金)
- 21日(火)
- 24日(金)
- 28日(火)
- 31日(金)
- 2月 4日(火)

2・3月は、春休みです

4月の予定は、3月下旬に短大HPでご確認ください
※4月以降は開催曜日に変更になる可能性があります



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

